

2026年度 博士前期課程入学者選抜(Ⅱ期)
学 力 検 査

外国語(英 語)

(I) 次の英文を読み、各問いに日本語で答えなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(Malmstrom, Jean (1977) Language and Culture. pp.22-24. AIKUSHA Reprint.)

問 1. 多くの自然観察者や研究者がとらわれている考えとは何ですか。

問 2. 下線部(1)の自然作家が見たことを書きなさい。

問 3. その作家は、その見たことをどのように解釈したかを書きなさい。

問 4. 作者は、自然作家が見たことをどのように解釈しているかを書きなさい。

問 5. この文には、どのような教訓が含まれているか書きなさい。

(Ⅱ) 次の日本語を読んで、要点を解答欄に 100 語程度の英語で書きなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(宮下遼『あまりに異質な「忘れられた世界史」…今こそ「オスマン帝国の歴史」を学び直すべき「驚きの理由」』、現代ビジネス (2025. 3. 20 配信))

(解答欄)

2026年度 博士前期課程入学者選抜（Ⅱ期） 学力検査
外国語（英語）

《解答・解答例》

論述試験のため出題の狙いを示す。

I 母鳥が幼鳥に飛行を教えるかどうかを論じた文である。世間一般では「教える」という主張がよく見られ、本文でもそれを指示するようなエピソードが紹介されるが、作者はそれに対して、別の解釈をしており、母鳥が幼鳥に飛行を教える証明にはならないと論じている。以上のような主張を読み取りながら、重要点に関する設問に取り組む必要がある。

II オスマン帝国の歴史の一面を論じた文である。近代社会では、すべての人間は、生まれながらにして尊厳や権利に関して平等である、という概念が当たり前のように受け取られている。しかしながら、これは西洋型の社会像であり、ともすれば、人間社会に存在する多様性や異質性を見えにくくしている。オスマン帝国はそもそも人間社会は多様な言語、宗教等をもった多様な人間の集合体であることをよく知っており、それを大前提として成立していた。以上の要点を簡潔にまとめて書くことが求められている。

《出題の意図》

I 大学院生としての研究に必要な、英語文献や論文の読解力を測る問題である。まとまった分量の英文の要点を把握して、内容を適切に理解できるかが問われている。

II 大学院生として、研究結果を英語で発信する能力を問う問題である。自分の考えをまとめ、簡潔に英語で表現する作文力が求められている。